

優良企業見学会

名古屋商工協同組合協会、名古屋伝統産業協会の総勢40名で

9月2日(金)、イチロー選手のバットを製造するミズノテクニクス社と最新鋭旅客機 B787の機器を製造するナブテスコ社岐阜工場を訪問!



【ミズノテクニクス社での概要説明】

いるとの概要説明が終わったあと、バット工房に移動する車中で、「今日は『現代の名工（卓越した技能者）』を受賞された久保田五十一氏が、直接バットの製作実演をし、その技術の一端を披露していただけます。」との連絡が入り、一同大感激。

バット工房では久保田名人にさっそく、青ダモの角材からイチロー選手が使用するバットと同型のバットに削りあげていただきました。親しみやすい語り口で説明していただき、一同、真剣な雰囲気でも聞き入っていました。



【バット工房内で久保田氏を囲んでの記念撮影】

今年の優良企業見学会は岐阜県西濃地方にあるミズノテクニクス株式会社とナブテスコ株式会社岐阜工場を訪問しました。

ミズノテクニクス株式会社は、2002年(平成14年)にミズノ株式会社から分社した会社とのこと。

ミズノ株式会社の製品の多くが、今では海外で生産されるようになっているが、野球用木製バットとゴルフクラブなどは、まだ、ここミズノテクニクス社で生産されて



【バットの製作実演をする久保田名人】

途中、落合中日ドラゴンズ監督が現役のときに「握りの部分が少し細い」といわれたので、正確に測定した結果、0.2mmの誤差があったことがわかり、それからは0.1mmの範囲の誤差に収めようとした、とのことでした。本日の見学会には、伝統産業の「職人」の方も大勢参加されていたので、なにか、相通ずることがあったように思えました。その後、別棟の工場ではゴルフクラブの作成過程を見学し、ミズノテクニクス社をあとにしました。



【ナブテスコ社岐阜工場での概要説明】

ここ、ナブテスコ株式会社岐阜工場では、中でも、防衛と民間の航空機分野の両方に、操縦システムなどの航空機用機器を製造・供給している工場とのことでした。

注目すべきは、岐阜工場の工場長の説明にあったように、愛知県を中心とした自動車産業の生産システム、ベルトコンベアに乗せて、大量生産するといったシステムとは異なり、少量生産・高付加価値製品を年間のうちに数十台、極端なものになると年に数台しか生産しないものもあるが、それでも年間売り上げが600億円弱あるとのこと。このために一人の作業員が1つの機械しか使えないということではなく、何台かの機械を使いこなす「多能工」とならなければならないこと。また、その製品も航空機という、事故が発生したならば、一瞬にして大勢の人命が奪われる可能性のあるものの機器を作っているのだから、製品の精度も千分の1mm以下の精度が要求され、それに応えることのできる作業をしていかなければならないなど、非常に厳しい技術が必要とされる世界です。社内研修ではそういった技術を取得するようにしているし、年長者の持っている技術がきちんと承継されるよう、社内で努力しているという説明がありました。

その後、工場の見学に入ったが、工場内は、きちんと整理整頓され、また、今誰が何の作業をしているのかなど、一目でわかるように図式化していたのには大変な感銘を受けました。



【美濃国一之宮南宮大社楼門前にて】

午後からはナブテスコ株式会社岐阜工場を伺いました。ナブテスコ社岐阜工場を伺う時分から、台風12号の影響からか、少しずつ風雨が強まってきたようでしたが、工場の中は、まだ平穏そのものでした。

ナブテスコ株式会社は、資本金100億円の太企業。「うごかす。とめる。」の技術を売りに、産業用ロボット、風力発電機用風車、新幹線のブレーキとドアなどで使用する機器を製造している会社です。



【ナブテスコ社岐阜工場玄関にて】

最後に、美濃国一之宮南宮大社に参拝しましたが、台風の接近もあり、参拝後は、徐々に風雨も強まってきましたので、名古屋吹上を目指し、急ぎ家路につきました。